

高校生防災意識アップ

講師招き避難所運営学ぶ

天童

青少年防災・減災未来フォーラム2022が17日、天童市の県青年の家で開かれ、県内の高校生34人が地域防災の担い手としての意識を

高めた。

元自衛官で県防災教育推進主幹の古川昭彦さんが、災害現場で支援活動に当たった経験を基に「災害時何が必要か？」と題して講



ワークショップでは生徒たちが意見を出し合いながら避難所運営の役割分担の図を描いた
＝天童市・県青年の家

演した。引き続き、東北大非常勤講師の斎藤幸男さんが講師を務め、ワークショップを開催。斎藤さんは東日本大震災発生時、宮城県石巻西高の教頭を務めていた。同校は指定避難所ではなかったが、校舎を地域住民に開放し、教職員と避難者が協力して4日間

の避難所運営を乗り切った。ワークショップでは、生徒が7グループに分かれ、災害時の避難所運営に必要な役割(係)を図にまとめて発表。斎藤さんは「縦割りの組織も時には必要だが、混乱期は責任者の判断を仰ぐのに時間がかかる。本部を中心とし、各係が責任を持って対応に当たる態勢の方が、スピード感が生まれる」と強調した。次世代を担う若者の防災意識と社会参画意識の育成を図ろうと、県青年の家が主催した。

(落合慶)